

Microsoft Azureを最速で アナリティクスに活用する

メリット

- メタデータ主導のAI搭載データ iPaaSでデータウェアハウスとデータレイクの迅速なモダナイゼーションを実現
- 移行するデータの検索、優先順位付け、下流の依存関係の識別、リネージの追跡により、モダナイゼーションに伴うリスクを軽減
- エンタープライズレベルの高度なデータ準備とコーディング不要の大規模データ統合により最新のアナリティクスを実現
- Azureへデータを移行する前にデータ品質の問題を解消することで業績の向上を促進
- コーディング不要の自動統合と、数百に及ぶオンプレミス、クラウドソース、Azureデータサービスとのネイティブな接続機能により俊敏性を向上
- メタデータ主導のデータ統合、データ品質、データガバナンスで柔軟性と拡張性を強化

インフォマティカのAI搭載クラウドデータ管理がデータウェアハウスとデータレイクの最新化を加速する

データとアナリティクスは、デジタルトランスフォーメーションの基礎となるものです。しかし、多くの企業がデータ管理に伴うさまざまな課題によって効果的なデータ活用に苦戦しているのが実情です。この問題をさらに大きくしているのが、データの保存先となっているオンプレミスシステムの存在です。オンプレミスシステムの多くは非効率的なプラットフォーム上に構築されているだけでなく、高コストや容量不足、時代遅れ、処理能力不足といった問題があることも珍しくありません。このような環境をクラウドに移行してデータアクセスとデータ管理を簡素化できれば、俊敏性とコスト効率を高め、優れたインサイトを獲得することができます。

データ主導のアプローチを採用している企業は、全社レベルの戦略の一環としてデータとアナリティクスに取り組んでいます。このような企業は、クラウドベースのデータ管理、データウェアハウジング、データレイクに投資して、データのサイロを解消し、BIツールとアナリティクスプラットフォーム間の情報を整流化しています。データ量とユーザー数の増加に伴い、処理のワークロードをクラウドへ移行する際には、劣悪なデータ品質が業績に悪影響を及ぼさないように細心の注意を払う必要があります。

企業データおよびアナリティクス環境の最新化（モダナイゼーション）を図るため、多くの企業がMicrosoft Azure上のクラウドデータウェアハウス/データレイクに移行しています。まったく新しいデータウェアハウスの構築、既存のレガシーデータウェアハウスの移行、企業データのAzure上のデータレイクへの移行など、いずれの場合もAzureを最大限に活用するためには、メタデータ主導のインテリジェントなデータ統合、データ品質、データガバナンス機能が必要です。

インフォマティカのインテリジェントな自動クラウドデータ管理は、まさにこれらの機能を提供します。この機能により、手作業を軽減し、データの透明性を高め、ビジネスニーズに応じて拡張できます。データレイクが「データの泥沼」になる事態を避けるためには、信頼できるデータをクラウドデータウェアハウスに移行する必要があります。インフォマティカのクラウドネイティブな機能を使用すれば、移行する前に、データのプロファイリングを行い、データ品質の問題を迅速に特定、修正、モニタリングできます。インフォマティカのソリューションにより、Azureに移行するデータをすばやく探索/統合し、データを確実に保護/管理することで、データ管理に関するあらゆる問題に対応できます。

「インフォマティカと Microsoft Azureは、自社のプラットフォームとテクノロジーに多額の投資を行っており、ユーザーである私はその恩恵を受けています。両社は製品の統合を通じて、ユーザーが必要とする柔軟性と俊敏性を実現しています」

– Ravi Ginjupalli氏
BIアナリティクス
担当シニアディレクター
Kelly Services社

データウェアハウスのモダナイゼーションの迅速化とリスク軽減

データ主導の組織づくりを実現するためには、古いエンタープライズ データウェアハウスを Microsoft Azure Synapse Analytics (以前のSQL Data Warehouse) のような新しい、クラウドベースのデータウェアハウスに最新化しなければなりません。依存関係などの要件を考えた場合、たとえ段階的な移行であっても決して単純な作業にはなりません。既存のオンプレミスデータウェアハウスには、全社規模で何年にもわたって蓄積してきたデータが保存されています。事業継続性を確保して業務が中断されないようにするためには、既存のウェアハウスで実行中の重要なデータフローを妨げるリスクを最小限に抑えなければなりません。

インフォマティカが提供する単一の統合クラウドデータ管理ソリューションを使用すれば、迅速に移行し、オンプレミスのレガシーシステムをAzure Synapseに最新化できます。また、AIを搭載したインフォマティカの企業データカタログにより、全社の企業データとメタデータをすばやく探索してカタログ化できます。下流の依存関係の識別やリネージの追跡により中断を最小限に抑えながら、機密データを特定して移行のリスクを判断できます。移行するデータとその依存関係/リネージを特定したら、インフォマティカのAzureネイティブなiPaaS (サービスとしての統合プラットフォーム)、Informatica Intelligent Cloud ServicesSM (IICS) を使用して、Azure Synapseに移行するデータワークロードを統合、同期化、管理して、その品質を確保し、最大限の利点を獲得できます。

クラウドでデータレイクを高度化

IoTセンサーやソーシャルメディア、eコマース、従来型ソースから取得したデータを活用して優れた顧客体験を推進することで、競争優位性を獲得できます。しかし、これらの大量の高速データの分析と保存にオンプレミスのハードウェアを使用すると、高コストのアップグレードを迫られることとなります。そこで、このデータをAzure Data Lake Storage (ADLS) などのデータレイクにストリーミングすることで、設備投資を回避することができます。ユーザーはADLS内のデータに直接アクセスできるだけでなく、コストを大幅に抑えながら、他のデータウェアハウスのデータと結合できます。

データガバナンスを維持しながら、すべてのユーザー (データアナリストからデータエンジニアまで) がセルフサービスのアナリティクスを通じて、データレイクのデータに迅速にアクセスして使用できる環境を提供する必要があります。しかし、時間のかかる複雑なアプローチ (手作業でのコーディングやコード生成など) では、データの整合性と最新性を維持することができません。

インフォマティカのソリューションにより、自動化したインテリジェントなエンタープライズクラウドデータレイクを効率的に構築し、ビッグデータパイプラインを特定、準備、統合、管理できます。クラウドの大量データ取り込み機能を使用すれば、ファイル、データベース、変更データキャプチャ、リアルタイムストリーミングデータなど、さまざまなソースからデータを取り込むことができます。その結果、新しいデータソースを既存のIT環境へ統合して、高度なアナリティクスおよびAI/MLプロジェクトを推進することで、構造化、非構造化、半構造化データのすべてから最大限の価値を引き出すことが可能になります。

インフォマティカのソリューションにより、データアナリスト、データサイエンティスト、データスチュワード (データ管理/案内人) は、Azureデータレイクをセルフサービスで管理して、データを迅速に把握し、革新的なインサイトを引き出し、イノベーションを促進できます。Azureデータサービスをあらゆるユーザーとワークロードのタイプで活用することによって、複雑なユースケースへも迅速に対応できます。

インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性を高め、新たな成長機会を実現するだけでなく、新たなイノベーションを生み出すことさえ可能にする将来への洞察力を提供します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要な汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

インフォマティカのソリューションにより、新しいデータソースとこれまでに投資してきた既存のIT環境を活用して、構造化、非構造化、半構造化データを探索、統合、準備、カタログ化、管理できます。また、AI主導の先進のデータ準備機能によって高度なアナリティクスおよびAI/MLプロジェクトを推進することや、Microsoft Azure Data Lake StorageなどのAzureデータサービスによってコーディング不要の大規模データ統合を実行することができます。

Azureでのクラウドデータウェアハウス/データレイクイニシアチブを成功に導く

インフォマティカのクラウドデータ管理により、Azureベースのデータ/アナリティクス戦略から最大限の価値を引き出すことができます。インテリジェンス、自動化、効率性を通じて、データウェアハウス/データレイクイニシアチブの迅速化とリスク軽減を図り、デジタルトランスフォーメーションを推進できます。メタデータ管理の基盤を全社レベルで統一することにより、コラボレーションを促進するとともにデータのカatalog化、統合、品質、ガバナンスのためのエンドツーエンドのプロセスを実現できます。オンプレミス、クラウド、ビッグデータのワークロードをAzureへ移行してモダナイゼーションを実現する主な機能は次のとおりです。

データカタログ: AI搭載の企業データカタログにより、エンドツーエンドのデータリネージを通じて、データ環境全体を可視化し、データ資産の探索、インベントリ、整理を迅速に実行できます。

[Informatica Enterprise Data Catalog](#)を使用すれば、すべてのエンタープライズシステムのメタデータをスキャンおよび収集して、ビジネスコンテキストを付加し、関係とリネージを推論できます。また、コラボレーションベースのセルフサービス式のデータ準備により、データパイプラインのエンリッチ化、クレンジング、ガバナンスを短時間で実行し、インサイトを迅速に獲得できます。

データ統合: [Informatica Intelligent Cloud Services](#)はエンタープライズクラスのAzureネイティブなAI搭載の自動iPaaSとして、データ統合機能、プッシュダウン最適化などの重要な最適化機能、また数百ものオンプレミス/クラウドデータソースおよびAzureデータサービスとのネイティブ接続機能を備えています (Azure Synapse Analytics、Azure Data Lake Storage、Azure Databricks、HDInsight、Blobなど)。これらの機能により、データのパイプラインを迅速かつ効率的に構築し、オンプレミスのデータワークロードをAzure Synapse AnalyticsやAzure Data Lake Storageに移行できます。

データ品質およびガバナンス: 自動化したインテリジェントなデータ品質およびデータガバナンスにより、データを確実にクレンジングおよび標準化し、高い信頼性とセキュリティを確保できます。

[Informatica Cloud Data Quality](#)を使用すれば、Azureベースのデータウェアハウス/データレイクへ移行する前に短時間でデータをプロファイリングして、データ品質の問題を特定、修正、モニタリングできます。コーディングは不要です。結果として、信頼できるデータに基づいてアナリティクスイニシアチブを推進することが可能になります。

今後のステップ

インフォマティカのソリューションによって迅速にAzureへ移行してアナリティクスを最新化する方法の詳細はwww.informatica.com/azureをご覧ください。インフォマティカまでお問い合わせください。Kelly Services社は、インフォマティカとAzureを活用して数々の新たな機会を手にしています。詳細は、[詳こちらの事例紹介](#)をご覧ください。



〒105-6226

東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600（代表）FAX：03-3433-1021

IN17_0420_03209

© Copyright Informatica LLC 2020. Informatica、Informaticaロゴ、Informatica Intelligent Cloud Servicesは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。